

子育て世代における運動やスポーツ実施の阻害要因の検討

— 岩手県矢巾町と葛巻町を事例として —

浅 沼 道 成

1. はじめに

日本では世界に例を見ない少子高齢化社会が急速に進み、地域の様々な環境が大きく変貌してきている。スポーツの場面に目を向ければ、少子化によってスポーツ少年団活動や学校の運動部活動がすでに成り立たなくなっている状況にある。また平均寿命が延び、医療費の削減という政策的課題に向けた高齢者人口の増加に伴う「健康寿命¹⁾」の増進が目標として掲げられている。その重要な政策の一つとして運動やスポーツの継続的な実施を有効な手段として位置づけている。

2000年のスポーツ振興基本計画²⁾ から始まり、2012年のスポーツ基本計画では、今後10年間を見通したスポーツ推進の基本方針として「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策課題としている。後期5年の第2期スポーツ基本計画(2017)の中でも、日本におけるスポーツ環境の整備目標の指標として、成人のスポーツ実施率が掲げられている。2000年に成人の週1回以上のスポーツ実施率が50% (2人に1人)、2012年からは、65% (3人に2人) をKPIとしてきた。

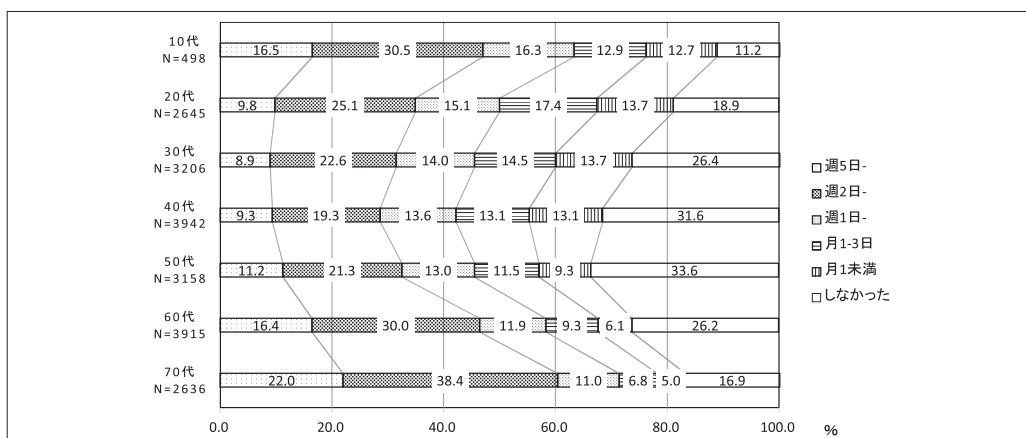


図1 1年間の運動やスポーツの実施率 年代別

1) 日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のこと

2) 国のスポーツ振興法(1961年)に基づき立案された日本で初めてのスポーツに関する基本計画

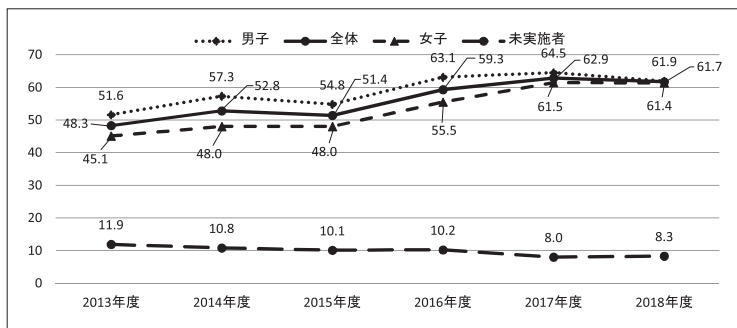


図2 岩手県の週1回以上の成人のスポーツ実施率 2018年

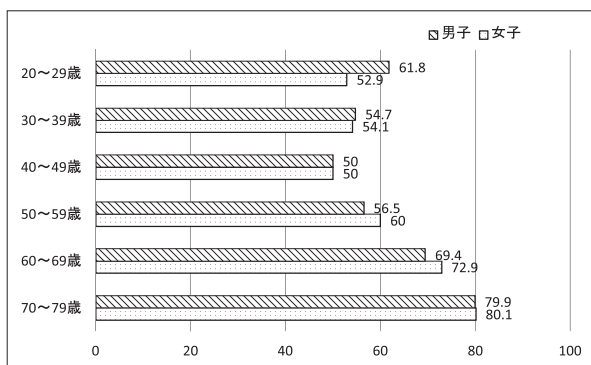


図3 岩手県の週1回以上のスポーツ実施率 2018年

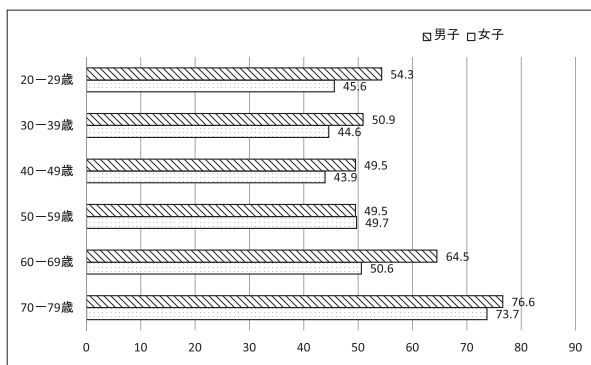


図4 全国の週1回以上のスポーツ実施率 2018年

特に、スポーツ振興基本計画以降、スポーツ実施率のKPI達成に向けた重要なスポーツ環境として「総合型地域スポーツクラブ³⁾」の育成が同時に進められてきた。全国に3580(2017年7月現在)のクラブが育成されているが、持続可能なシステムとしてまだ確立されていないのが現状である。

図1は、世代によるスポーツ実施の状況を、スポーツ庁健康スポーツ課の報告書「スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成29年11～12月調査)」から、筆者が作成した図である。報告書では10代を除いた成人の週3日以上運動実施率は26.0%、週1日以上運動実施率は51.5%と報告されている。また、30年度の同調査報告では55.1%と数値がアップしている報道発表(2019年2月28日)がなされている。

図2と図3は、岩手県の県民のスポーツ実施状況に関する調査2018年から成人のスポーツ実施率に関して筆者が作成した図である。岩手県において成人の週1回以上の実施率が60%を超えている状況にあり、未実施者が10%を切っている。また図3から世代別では、20代の男子が61.8%と高いが、特に40代がもっとも低く、30代と50代も低い傾向がみられる。

図4は、前掲の2018年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」報道発表から筆者が作成した図である。岩手県の結果と全国調査の結果は、調査方法や項目に違いはあるが、週1回以上のスポーツ実施率や世代別の傾向は同様であり、特に若い世代の40代に低い傾向がみられている。このように若い世代(働き世代)において運動やスポーツを実施する人が少ないという特徴がある。

3) 身近な地域でスポーツを楽しむことができる新しいタイプのスポーツクラブで、多世代が参加でき、多目的のプログラムが展開されている地域スポーツクラブ

2. 研究の目的

岩手県では、2017年度からスポーツ政策についての担当部局が教育委員会から知事部局「文化スポーツ部」に移管され、文化スポーツ部のスポーツ振興課が核となり、県内の4つの広域振興局単位において地域に根差した生涯スポーツ政策が展開されてきている。2018年度に盛岡広域振興局の「多様なスポーツライフ促進事業」に一般社団法人盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が提案して採択された『いい汗流して、充実ライフ』推進プロジェクトが実施された。このプロジェクトは、総合型地域スポーツクラブが地域の若い世代、すなわちスポーツ実施率の低い世代の運動やスポーツへの参加促進に向けたモデル事業であった。盛岡広域振興局は8市町村⁴⁾を管轄し、この企画では総合型地域スポーツクラブが設立されている矢巾町（楽々クラブ矢巾）と葛巻町（葛巻町スポーツ協会スポーツクラブ）をモデル地区として、若い世代向けの新規プログラムの開催と地域における現状とニーズ調査を実施した。（ ）内は、育成されている総合型地域スポーツクラブ名である。

その中で筆者が担当した矢巾町と葛巻町で実施した質問紙調査で得られたデータをもとに、本研究では事例研究として子育て世代の運動やスポーツの実施を阻害している要因とその課題解決に向けた方策に対する提言をすることが目的である。すなわち、このモデル事業に対して、研究成果から次に向けた政策立案に役立てる目的がある。

3. 研究の方法

①手順

- ・矢巾町の総合型地域スポーツクラブ「楽々クラブ矢巾」と葛巻町の総合型地域スポーツクラブ「葛巻町スポーツ協会スポーツクラブ」のクラブマネージャー等にインタビューを行い、地域の様子や子育てを含めた働き世代のスポーツや運動への参加における促進や阻害している状況について情報収集した。
- ・先行調査として東京都の「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（2017）、スポーツ庁の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（2018, 2019）、盛岡広域スポーツコミッションの「盛岡広域のスポーツ施策に関する調査」（2018）を検討した。
- ・以上の手順を踏まえて、各教育委員会担当者とともに質問項目等を検討して調査票を作成した。
- ・矢巾町と葛巻町の小、中学校を通じて調査票を配布していただき調査を実施した。
- ・データはIBM SPSS 統計パッケージによって、主にクロス集計を行って検討した。

②調査対象と調査方法

- ・期間 平成31年2月25日（月）～3月6日（水）
- ・対象 矢巾町の全中学生（741名）の保護者 回収率 25.2%（191枚）
葛巻町の全小・中学校（288名）の保護者 回収率 30.9%（92枚）
- ・方法 両町の教育委員会の協力をいただき、矢巾町は矢巾中学校と矢巾北中学校（全中学校）、葛巻町は町内の全小学校と全中学校の児童・生徒を通じ調査票を配布していた

4) 岡広域振興局は、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町、矢巾町、紫波町、岩手町、葛巻町の8市町を管轄しており、2017年度より、スポーツ推進に対して特命課長を配置して政策にあたっている。

だし、期間内に各個人から返信用封筒で郵送回収した。

③調査項目

- ・ 個人の属性（性別、世代、職業）
- ・ 地域で育成されているスポーツクラブと総合型地域スポーツクラブの認知
- ・ 1年間の運動やスポーツへの活動の有無
- ・ 活動頻度と活動内容
- ・ 活動実施・非実施等の理由
- ・ 活動場所や活動実施の希望時間帯等
- ・ 希望プログラム
- ・ 運動やスポーツの活動を阻害している要因（自由記述）
- ・ 運動やスポーツに関する意見（自由記述）

4. 結果及び考察

①回答者の属性と考察の視角

表1と表2は、回答者のプロフィールであり、全体的には男性1：女性4の割合で女性の回答者が多かった。特に女性で専業主婦が少なく、ほとんどの女性が何らかの仕事についていた。この調査では女性がフルタイムなのかパートタイムなのかという働き方までは回答を求めていなかった。また、児童生徒を通じての配布であり、子育て世代の方への調査である旨は伝えていたが、必ずしも父母以外の家族が回答している可能性はぬぐえなかった。しかし、本研究の目的である子育て世代（働き世代）の運動やスポーツへの活動の参加状況や意識について検討する上では、大きな問題になるとは考えていない。回答者に女性が多いが、ほとんどの回答者が仕事を持ちながら子育てしているという背景を踏まえ男性を含めて総合的に考察をする。

表1 回答者のプロフィール 性別と年代

地域			年齢				合計
			30代	40代	50代	NA	
矢巾	性別	男性	2 7.4%	18 66.7%	7 25.9%	0 0.0%	27 100.0%
		女性	26 15.9%	120 73.2%	17 10.4%	1 0.6%	164 100.0%
	合計		28 14.7%	138 72.3%	24 12.6%	1 0.5%	191 100.0%
葛巻	性別	男性	7 24.1%	14 48.3%	7 24.1%	1 3.4%	29 100.0%
		女性	25 39.7%	32 50.8%	6 9.5%	0 0.0%	63 100.0%
	合計		32 34.8%	46 50.0%	13 14.1%	1 1.1%	92 100.0%
合計	性別	男性	9 16.1%	32 57.1%	14 25.0%	1 1.8%	56 100.0%
		女性	51 22.5%	152 67.0%	23 10.1%	1 0.4%	227 100.0%
	合計		60 21.2%	184 65.0%	37 13.1%	2 0.7%	283 100.0%

表2 回答者の職業

地域		職 業								合計
		自営・家族従業	経営・管理職	専門・技術職	事務職	労務・技能職	販売・サービス職	無職の主婦・主夫	その他の職	
矢巾	男性	2 7.4%	5 18.5%	11 40.7%	3 11.1%	2 7.4%	3 11.1%	0 0.0%	1 3.7%	27 100.0%
	女性	5 3.0%	2 1.2%	35 21.3%	45 27.4%	4 2.4%	31 18.9%	24 14.6%	18 11.0%	164 100.0%
葛巻	男性	3 10.3%	3 10.3%	10 34.5%	4 13.8%	5 17.2%	3 10.3%	0 0.0%	1 3.4%	29 100.0%
	女性	9 14.3%	0 0.0%	18 28.6%	15 23.8%	2 3.2%	5 7.9%	5 7.9%	9 14.3%	63 100.0%
合計	男性	5 8.9%	8 14.3%	21 37.5%	7 12.5%	7 12.5%	6 10.7%	0 0.0%	2 3.6%	56 100.0%
	女性	14 6.2%	2 .9%	53 23.3%	60 26.4%	6 2.6%	36 15.9%	29 12.8%	27 11.9%	227 100.0%
		19 6.7%	10 3.5%	74 26.1%	67 23.7%	13 4.6%	42 14.8%	29 10.2%	29 10.2%	283 100.0%

また、地域性という視点から矢巾町は県庁所在地の盛岡市のベットタウン化しており、人口が増加している地域（人口27,371人：2018年3月現在）と葛巻町は盛岡市の北東、北上山地に位置する平地の少なく人口が減少している地域（人口6,227人：2018年10月現在）という特性を踏まえて考察を進めていく。

②運動やスポーツへの活動の状況とニーズ

表3は、1年間に運動やスポーツを実施した有無について聞いた結果である。回答者に運動やスポーツの具体的な内容をイメージしてもらい不安を持たれないように例を示して実施した⁵⁾。運動やスポーツの内容については、「比較的軽いスポーツや運動」「趣味等を活かしたスポーツや運動」「競技的スポーツ」に分類したもの（参考文献の後に掲載）を参考に回答していただいた。全体では女性の4割を超えた非実施があり、男性よりも多い傾向がみられた。全体としては矢巾町の結果が反映されているが、図3の「県民のスポーツ実施状況に関する調査2018年」では男女に差がなかった。この傾向は、県全体の平均では見えない地域性が現れてきたものと解釈できる。都市部、農村地域、過疎地域など、より地域性を踏まえた検討が必要ことが示され、今後の検討課題となった。

表3 1年間の運動やスポーツの実施

		実施	非実施	合計
矢巾	男性	21 77.8%	6 22.2%	27 100.0%
	女性	92 56.1%	72 43.9%	164 100.0%
葛巻	男性	20 69.0%	9 31.0%	29 100.0%
	女性	42 66.7%	21 33.3%	63 100.0%
合計	男性	41 73.2%	15 26.8%	56 100.0%
	女性	134 59.0%	93 41.0%	227 100.0%
		175 61.8%	108 38.2%	283 100.0%

33.5%，年1回以上の実施率は58.6%であった。葛巻町は週1回以上のスポーツ実施者が18人

5) 具体的には、「比較的軽いスポーツや運動」「趣味等を活かしたスポーツや運動」「競技的スポーツ」の3分類にしてその内容を表に示し、その表を参照して回答していただいた。

で実施率19.0%，年1回以上の実施率が67.4%であった。この2町を比較すると矢巾町は葛巻町に比べて週1回以上の定期的実施者が多く，葛巻町では単発的な実施者が多く，一過性な活動，行事的な活動の参加が多いという特徴が考えられた。しかし，両町のスポーツ実施率は図1の全国の調査や図3の県内の調査の平均からみてもかなり低い実施率を示していた。

表4 運動やスポーツの実施

運動やスポーツの内容		週3日以上 (年151日以上)	週に2日 (101日～150日)	週に1日 (年51日～100日)	月に1～3日 (年12日～50日)	3ヶ月に1～2日 (年4日～11日)	年に1～3日	わからない	合計
矢巾	比較的軽いスポーツや運動	24 27.9%	15 17.4%	14 16.3%	12 14.0%	13 15.1%	7 8.1%	1 1.2%	86 100.0%
	趣味等を活かしたスポーツや運動	3 18.8%	2 12.5%	3 18.8%	3 18.8%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	16 100.0%
	競技的スポーツ	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	3 33.3%	0 0.0%	3 33.3%	0 0.0%	9 100.0%
	わからない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	合計	27 24.1%	17 15.2%	20 17.9%	18 16.1%	16 14.3%	13 11.6%	1 0.9%	112 100.0%
葛巻	比較的軽いスポーツや運動	7 18.9%	1 2.7%	4 10.8%	12 32.4%	7 18.9%	6 16.2%	0 0.0%	37 100.0%
	趣味等を活かしたスポーツや運動	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	7 53.8%	1 7.7%	3 23.1%	1 7.7%	13 100.0%
	競技的スポーツ	3 25.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%	12 100.0%
	わからない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 100.0%
	合計	10 16.1%	2 3.2%	6 9.7%	20 32.3%	11 17.7%	12 19.4%	1 1.6%	62 100.0%

また，実施した運動の内容から，「比較的軽いスポーツや運動：自宅，職場，近所，運動教室等で日常的に行うことができる身体活動」を実施していた人が矢巾町で76.8%，葛巻町で59.7%と多くを占めていた。「どのようなスポーツや運動のプログラムがあれば参加したいですか」という自由記述では，矢巾町と葛巻町を合わせて98件の記述があり，内33件で「ヨガ」あるいは「ピラティス」といった種目名が上がり，32件が女性のニーズであった。そのほかにはウォーキング，エクササイズ，ストレッチなど気軽にできる運動系のニーズが挙がっていた。

この自由記述から，葛巻町では28件中8件に「親子で」「子供と」，「家族で」，「友人と」というキーワードが出てきた。矢巾町には全く登場してこなかったフレーズであり，まさに地域性のニーズとして捉えられ，運動やスポーツをすることと家族のふれあいと重なってイメージしていることが伺えた。まさに地域性の持つ特性である。

表5は，「今後，運動やスポーツをしたいと思ったときに，地域にどのような環境があればよいか」と尋ねの結果である。これ結果からもわかるように，葛巻町では64.8%の人が「子供と一緒に活動できるプログラムや場所がある環境」を選択していた。矢巾町では幅広くスポーツ環境を望んでいる傾向がみられ，ここでも地域性が出ている。また，両町とも「スポーツ教

表5 望む地域での環境（複数回答）

	子供と一緒に活動できるプログラムや場所がある環境	スポーツや運動に関する情報が得られる環境	多くのスポーツや運動のプログラム（スポーツ教室など）がある環境	スポーツや運動ができるサークル・スポーツクラブがある環境	特に、今のままでよい	その他	
矢巾	73 39.9%	41 22.4%	74 40.4%	58 31.7%	37 20.2%	25 13.7%	183
葛巻	57 64.8%	16 18.2%	33 37.5%	22 25.0%	16 18.2%	5 5.7%	88
合計	130	57	107	80	53	30	271

室などのプログラム」やスポーツをする場としてのスポーツクラブやサークル等も望んでおり、少ないが「運動やスポーツにかかわる情報」にもニーズを感じていることが伺えた。さらに、「特に、今のままでよい」と答えた人もそれなりに存在し、無関心というか、なぜなのかその理由を追っかけていく必要がある。

表6 スポーツや運動をする理由（複数回答）

	健康維持・体力づくりのため	楽しみや気晴らし・気分転換のため	運動不足解消のため	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	家族とのふれあいの機会として	友人・仲間との交流の機会として	美容や肥満解消のため	その他	特に理由はない	
矢巾	71 65.7%	58 53.7%	60 55.6%	3 2.8%	3 2.8%	33 30.6%	19 17.6%	41 38.0%	6 5.6%	2 1.9%	108
	38 69.1%	24 43.6%	32 58.2%	3 5.5%	1 1.8%	5 9.1%	8 14.5%	22 40.0%	0 0.0%	3 5.5%	55
	109	82	92	6	4	38	27	63	6	5	163
葛巻	30 58.8%	31 60.8%	23 45.1%	3 5.9%	2 3.9%	14 27.5%	16 31.4%	12 23.5%	4 7.8%	1 2.0%	51
	11 50.0%	13 59.1%	13 59.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 22.7%	4 18.2%	8 36.4%	0 0.0%	3 13.6%	22
	41	44	36	3	2	19	20	20	4	4	73

表6は、実施者には「運動やスポーツを行った理由」、非実施者には「今後の運動やスポーツを行なおうとした場合に考えられる理由」を複数回答で伺った結果である。実施者も非実施者も、運動やスポーツに対して「健康維持・体力づくりのため」「楽しみや気晴らし・気分転換のため」「運動不足解消のため」といった「健康」と「楽しみ」といった共通の価値に重きを置いていることがわかった。特に、女性の回答者から「美容や肥満解消のため」という女性特有の手段的価値に重きを置いていることが確認できた。また、矢巾町では、「家族とのふれあいの機会として」に実施と非実施で大きな差がみられ、この傾向はどのような要因から起因するのか今後の検討課題である。おそらく、矢巾町の実施者の多くは「家族や子どもと一緒に活動している人が多い」、あるいは「活動したいという願望が強い」といった仮説が立てられるだろう。

③阻害要因の検討

表7は、運動やスポーツの実施の阻害要因について複数回答で聞いた結果である。回答には1年間に運動やスポーツを実施した頻度が週1回までには行っていなかった人と実施しなかった人に伺っている。突出して「仕事や家事・育児が忙しくて時間が無い」が7割弱から8割の人が掲げている。過去の調査でも同様の理由が挙げられているがこの両町の回答が特に割合が高い。両町の特徴というよりも、少子化社会、人口減少社会におけるライフスタイルが大きく変化した現在、多くの地域の人々が多忙感を感じ、夫婦共働きで子育てを行なっている。この

表7 運動やスポーツ実施の阻害要因（複数回答）

		間 隙 が な い か ら	体 が 弱 い か ら	年 を と つ た か ら	設 身 が 近 い 場 所 や 施 	仲 間 が い ない か ら	か 指 導 者 が い ない	お 金 が か か る か ら	か が ス ポ ー ツ は な い 動 	か 機 会 が な か つ た	て 病 い る か ら	面 倒 だ か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い	合 計
矢巾	実施した人が 少なかった人	37 82.2%	1 2.2%	2 4.4%	10 22.2%	3 6.7%	1 2.2%	12 26.7%	3 6.7%	11 24.4%	0 0.0%	11 24.4%	1 2.2%	2 4.4%	45
	非実施者	53 74.6%	2 2.8%	3 4.2%	6 8.5%	10 14.1%	1 1.4%	18 25.4%	9 12.7%	17 23.9%	9 12.7%	18 25.4%	2 2.8%	3 4.2%	71
葛巻	実施した人が 少なかった人	29 67.4%	0 0.0%	4 9.3%	9 20.9%	4 9.3%	1 2.3%	7 16.3%	3 7.0%	15 34.9%	0 0.0%	1 2.3%	2 4.7%	2 4.7%	43
	非実施者	19 86.4%	0 0.0%	3 13.6%	2 9.1%	2 9.1%	0 0.0%	3 13.6%	6 27.3%	8 36.4%	3 13.6%	5 22.7%	0 0.0%	2 9.1%	22

ライフステージの運動やスポーツとのかかわり方について早急に新たなイメージづくりに向けた取り組みを進めていかなければならない。

また、自由記述で「あなたにとって何が運動やスポーツをすることを妨げていると思うか」の設問に対して矢巾町と葛巻町を合わせて163の記述があり、「時間がない」「家事・仕事・子育てが忙しい」等の記述が81（50.0%）もあった。実施者・非実施者に関係なく記述されており、共通の認識であった。ただし、定期的な運動やスポーツを実施している人でも、時間のなさを感じながらも活動していることも事実であり、単純に「時間」というキーワードが阻害要因ではあるとは言えず、時間の様々な側面、特に心理的な側面もきちんと捉えていかなければ、そのまま「時間がない」という理由がスポーツ行動と直結しているとは言えないと考えられる。

さらに、自由記述では「子供の送迎」「子供のクラブや行事」等の「子供の支援」という阻害要因が見られた。スポーツ少年団活動や部活動の練習や試合に対する送迎や支援の中で、父母の役割など多忙な仕組みになっていることが伺われる。自分の時間を持っていないという訴えであり、まさに「時間がない」と結びつく構造的な仕組みとして浮き彫りにしていかなければならないことが示唆された。また、表7からもみられるが、「お金」というキーワードも散見された。このお金とはどのような内容かこのデータからだけでは説明できないが、スポーツ用具の購入や移動の費用、施設の利用代やプログラム参加費などを指しているものと思われる。やはり、運動やスポーツのためにお金を掛かることへの抵抗感が、日本、特に地方において、運動やスポーツが「体育」という教育と結びついて振興されてきた経緯から、まだまだ根強く残っているものと思われた。この認識も大きな阻害要因である。

以上をまとめると運動やスポーツ活動を阻害している要因は、全体に「時間的」要因（物理的な時間と心理的な時間）が中心となり、「子育て支援」要因（構造的仕組み）が密接に絡み、そのほかに「スポーツ環境」要因（施設とプログラム）がある。さらに「お金」要因と「個人的特性」要因（運動やスポーツの価値に対する意識と個人的認識）が微妙に絡んでいる構造が捉えられた。

図5のようにまとめられたが、この中でいかに「時間」要因を解決するかがポイントである。そのためには、「子育て支援」の現状の仕組みを改善していくことが子育て世代の運動やスポーツの実施に向けて重要であると考えられた。現在、教員の働き方改革を含めた部活動の在り方や少子化によるスポーツ少年団の存続の危機などといった課題に対する解決を含めてこ

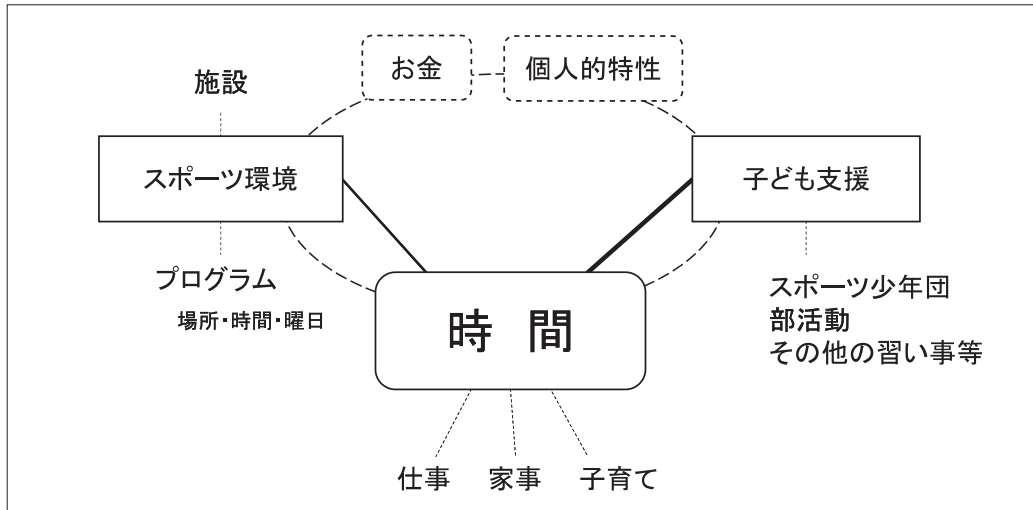


図5 子育て世代のスポーツや運動活動を阻害している要因構造矢巾町と葛巻町

の課題を検討していくべきである。まさに、ライフスタイルの変化に対応した解決策が必要である。また、「スポーツ環境」の改善では、少子高齢化、人口減少社会におけるスポーツ施設の在り方が問われている。今後、どのような施設をどのように配置して経営していくべきか、またこれと深くかかわるプログラムをどのように展開していくべきか問われていく状況だ。子育て世代、広く働く世代の「健康」をキーワードに、また葛巻町からみえてきた「家族といっしょの活動」を念頭においたプログラム開発の検討が必要である。

表8は、「運動やスポーツをしたらどの時間帯がよいか」を伺った結果である。「土・日」と「夜、帰宅後」を3割から4割程度の人が希望していた。実際には多岐にわたって時間帯を希望している様子が見受けられているが、このようなデータを活用して地域性を考慮したプログラム開発とその提供の方法が求められる。

表8 プログラムの開催時間帯（複数回答）

	朝、出勤 や子供の 通学前	午前中	午後	夕方	夜、帰宅後	平日	土曜日	日曜日	土日以外 の仕事の 休日	わからない	合計
矢巾	8	45	12	26	57	20	73	63	24	20	186
	4.3%	24.2%	6.5%	14.0%	30.6%	10.8%	39.2%	33.9%	12.9%	10.8%	
葛巻	4	11	8	12	36	11	31	28	5	14	91
	4.4%	12.1%	8.8%	13.2%	39.6%	12.1%	34.1%	30.8%	5.5%	15.4%	
合計	12	56	20	38	93	31	104	91	29	34	277

③総合型地域スポーツクラブの認知度

表9は、現在両町に育成されている総合型地域スポーツクラブとしての「楽々クラブ矢巾」と「葛巻町スポーツ協会スポーツクラブ」の認知度の結果である。矢巾町では「知っていてどのような活動をしているか知っている」と回答した人が52.4%であり、「知っているがどのような活動をしているか知らない」が34.6%で少なくともその存在を87.0%が知っていた。葛巻町では、60.1%にとどまり、活動内容まで知っている人が3割しかいなかった。

表9 矢巾：楽々クラブ矢巾 葛巻：葛巻町スポーツ協会クラブの認知

	知っているし、どのような活動をしているか知っている	知っているが、どのような活動をしているかわからない	知らない	合計
矢巾	100 52.4%	66 34.6%	25 13.1%	191 100.0%
葛巻	29 31.5%	28 30.4%	35 38.0%	92 100.0%
合計	129 45.6%	94 33.2%	60 21.2%	283 100.0%

表10 「総合型地域スポーツクラブ」という言葉の認知

	聞いたことがある	聞いたことがない	合計
矢巾	32 16.8%	158 83.2%	190 100.0%
葛巻	17 18.5%	75 81.5%	92 100.0%
合計	49 17.4%	233 82.6%	282 100.0%

また、表10は「総合型地域スポーツクラブ」という言葉の認知度を聞いてみたが、両町とも「聞いたことがない」が8割を超えていた。総合型地域スポーツクラブとは平成7年から文部科学省がモデル事業として、次世代のスポーツ環境（スポーツをする場）として提唱してきた地域スポーツクラブであり、2000年のスポーツ振興基本計

画には、全国の市町村には少なくとも1つ以上育成することを政策目標としてスタートした事業である。岩手県では県の広域スポーツセンター事業として平成15年から本格的に育成がスタートし、57クラブ（平成29年度）が活動している。その中で、矢巾町では平成21年に「楽々クラブ矢巾」が育成され、葛巻町では平成23年に「葛巻町スポーツ協会スポーツクラブ」が育成されてきた。

認知度から見ると、総合型地域スポーツクラブという理念が理解されずにクラブ名が先行して認知されていることが確認できた。しかし、このクラブがどのような意図で地域に育成され、スポーツ少年団や地域のサークル活動との違いがまったく理解されていない可能性が高い。岩手県において総合型地域スポーツクラブが各市町村で育成されてきたがその活動等がなかなか浸透・発展してこなかった理由がここにみられる。

5. まとめ

本研究では、矢巾町と葛巻町の2町の子育て世代、特に矢巾町では全町内の中学生の家庭と葛巻町では全町内の小・中学校の家庭に調査用紙を配布し、父母を対象に調査を実施した事例研究であった。その目的は、特定の地域における運動やスポーツの定期的な実施が少ない30代・40代・50代世代の実施の促進を目指し、特に子育て世代に絞ってその地域の現状とその実施の阻害要因について検討することにあった。

調査で子育て世代に回答を求めた結果、3分の2が仕事を持ちながら小・中学生の子育てをしている女性であり、この点を踏まえて考察を行ってきた。1年間に運動やスポーツを実施した人は、矢巾町で58.6%、内週1回以上の実施者は33.5%、葛巻町で67.4%、内週1回以上の実施者は19.0%であった。この結果から、運動やスポーツの実施について地域性の違いがあることが確認された。特に、実施率は岩手県平均や全国調査の平均よりも低かった。これは世論調査の限界であり、それぞれの地域特性を踏まえた調査研究が必要なことが示唆された。また、実施者の中でどのくらいの頻度（日数）かでは、両町で違いがみられ、地域のおかれてい

る様々な環境の違いが活動実態に影響していることがわかった。

つぎに、矢巾町と葛巻町の両町における子育て世代の運動やスポーツの実施を阻害している要因について検討した結果、多くの調査結果では、時間ない、場所がない、仲間がいないといった要因が挙げられてきたが、本調査では家事、仕事、子育てによる「時間がない」という要因に特化していた。対象が子育て世代であり、働き世代であり、予想されていたが8割前後とかなり多かった。まさに図5に阻害要因の構造としてまとめたが、「時間」という軸要因のもと、特に、「子育て支援」という子育て世代特有の要因が仕組みとして絡んでいる状況が捉えられた。それらの構造に対して解決を求めた施設や教室事業などのプログラムの提供といった「スポーツ環境」の不足やミスマッチがみえてきた。また、「お金」や「個人的特性」などについてはスポーツ教育という歴史的な運動やスポーツへの支援体制（行政が無料で支援する仕組み）などが根強く残存していることが阻害要因として確認された。

要するに、家事、仕事、子育てといった「時間」要因と部活動やスポーツ少年団、PTAなどの「子供の支援」という仕組みの改革と合わせた解決策を提案していかなければならない。もう一つ重要な視点は、仕事や家事が忙しいという理由に特化して時間がないと認識している人たちに、忙しさと運動やスポーツを実施する価値が上回るような働きかけ、意識改革、環境整備を行っていく必要があることも示唆できる。まさに日本におけるスポーツ文化であり地域文化の側面であり、課題解決に向けて時間を要することなのかもしれない。しかし、将来を見据えた文化の創造を求めていることが必要である。

最後に、本研究で明らかになった地域性のなかで子育て世代の運動やスポーツの実施の推進に向けた方策は、地域に根差した総合型地域スポーツクラブの育成が有効な手段であると再認識できた。まさに運動やスポーツを通じた地域づくりを明確なコンセプトとして地域の課題に対して、特に地域住民のライフスタイルの構築に向けてその力が発揮できるものと考えられる。地域の様々な住民に対してそれぞれのライフステージにおけるライフスタイルを構築していく手助けになる、それが運動やスポーツの実施であり、それを促進して行ける重要な仕組みの一つとして総合型地域スポーツクラブの育成だと提言できる。

参考文献

- 浅沼道成（2003年）久慈地区における新たなスポーツ空間の構築に関する基礎研究 三陸総合研究 23号
浅沼道成（2004年）宮古周辺における新たなスポーツ空間の可能性 三陸総合研究 25号
浅沼道成（2018年）スポーツコミッションの役割に関する一考察
－盛岡広域を対象とした意識調査より－ アルテス リベラレス 第102号
松田尚子（2014年）スポーツ活動の実態調査における調査項目に関する一考察 筑波大学体育系紀要 37
文部科学省（2000年）スポーツ振興基本計画
文部科学省（2012年）スポーツ基本計画
文部科学省（2017年）第2期スポーツ基本計画
スポーツ庁（2018年・2019年）平成29年度・30年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」
スポーツ庁（2018年）「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」
東京都（2017年）「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」
岩手県（2018年）「県民のスポーツ実施状況に関する調査」
盛岡広域スポーツコミッション（2018年）「盛岡広域のスポーツ施策に関する調査」

参考資料

調査時に運動やスポーツについて参考にしていただいた表

1. 比較的軽いスポーツや運動活動を行った

※〔イメージ〕自宅、職場、近所、運動教室等で日常的に行うことができる身体活動

例)・ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩、意識的な階段利用などを含む）・体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳び、筋力トレーニングを含む）・軽い球技（キャッチボール、卓球、ドッジボール、バドミントン、テニス、バレーボール、サッカー、フットサル、ポッチャなど）・軽い水泳（水中歩行・水中運動を含む）・ランニング（ジョギング）・ボウリング・室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を使ってする運動・ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡踊り、車いすダンスを含む）・ニューススポーツ（ゲートボール、グラウンドゴルフ、スポーツ吹矢、フライングディスクなど）

2. 趣味等を活かしたスポーツや運動活動を行った

※〔イメージ〕自然豊かな場所や環境が整った場所で楽しみながら行う身体活動

例)・サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ・ゴルフ・ハイキング、ワンダーフォーゲル、オリエンテーリング、ウォークラリー・海水浴（遊泳）・スキー、スノーボード・釣り・登山（クライミング）・キャンプ、オートキャンプ・ボート、ヨット、スキングダイビング、スクーパダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリング・スケート、ローラースケート、スケートボード・ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビング・マラソン、トレイルランニング

3. 競技的スポーツ活動を行った

※〔イメージ〕特に試合などで相手と勝敗を競い合いながら行う身体活動

例)野球、サッカー（ブラインドサッカーを含む）、フットサル、テニス（車いすテニスを含む）、ソフトテニス、卓球（サウンドテーブルテニスを含む）、バレーボール（シットイングバレーボールを含む）、柔道・剣道・空手・相撲・合気道など武道、ソフトボール、陸上競技、水泳競技、ボクシング・レスリングなど格闘技、弓道、アーチェリー、ラグビー（タグラグビー、ウィルチェアーラグビーを含む）など